

# 成人看護学実習Ⅰ（慢性回復期）

## 1. 目的

何らかの健康障害の回復過程にある対象および家族を発達課題・発達段階を踏まえて理解し、健康障害の受容と生活の自立、あるいは生活の再構築を支援するための看護ができる能力を養う。

## 2. 目標

- 1) 健康障害のある対象および家族を理解できる。
- 2) 健康障害の回復過程にある対象との関わりを通して、看護に対する考え方を深めることができる。
- 3) 対象の健康上の課題を把握し、患者教育方法をふまえながら、個別性に応じた看護計画を立案することができる。
- 4) 健康障害のある対象および家族への社会復帰を支援する看護が実践できる。
- 5) 慢性期にある対象とその家族を支える保健医療福祉チームの継続的な連携と役割を理解し、責任ある行動をとることができる。
- 6) 生涯を通してセルフコントロールが必要な対象の思いに関心を持ち、主体的な学習への取り組みができる。

## 3. 実習構成

成人看護学実習Ⅰ 2単位（90時間）	時間数		実習施設
	オリエンテーション	2時間	イムス横浜国際看護専門学校
		2時間	在宅
	臨地実習	42.5時間	相原病院、イムス横浜狩場脳神経外科病院、菊名記念病院、東戸塚記念病院、横浜旭中央総合病院、横浜新都市脳神経外科病院、新戸塚病院
	学内実習	6時間	イムス横浜国際看護専門学校
	在宅実習	37.5時間	在宅

## 4. 患者選定条件

- 1) 慢性期にある成人期の患者。
- 2) 生涯を通してセルフコントロールや生活の再構築のための指導を必要としている患者。
- 3) 意識レベルの低下が著しい患者、急変が予測される患者、手術療法が予定されている患者は避ける。

実習目標に関する学習内容

目標 1 健康障害のある対象および家族を理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象の抱える身体的問題について、退院後の生活を見据えて、説明できる。	1.慢性疾患の特徴 1) 経過の緩慢な疾患 2) 増悪、緩和を繰り返す疾患 2.身体的苦痛の理解 1)身体症状とそのメカニズム ①疾患の病態生理、解剖生理 ②身体機能の障害による生活機能の障害 ③身体症状の増悪因子と緩和因子 2)治療、検査が身体に及ぼす影響 ①日常生活と関連した療養法 ②日常生活や社会生活の制約をもたらす治療 ③長期にわたる自己管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習、事後学習の活用</li> <li>・受け持ち患者の病態関連図を作成</li> <li>・S、O データが何を意味しているのか、助言を受け、アセスメントを進める。</li> <li>・対象の健康上の問題を生活の視点で捉え、身体的問題の理解につなげる。</li> </ul>
2. 対象や家族の心理的問題について、中範囲理論を用いて、説明できる。	1.精神的苦痛の理解 1)中範囲理論を用いたアセスメント ①疾病受容過程、喪失体験 ②障害受容のプロセス、c o h n の障害の受容過程 ③危機モデルからみた疾病の受容、フィングの危機モデル ④適応過程、ストレスコーピング理論 2.自己価値観、生きがい、生きる希望 3.ライフサイクルに関する理論と発達課題 1)ハヴィガーストの発達理論 2)エリクソンの発達理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象及び家族の情報を中範囲理論に当てはめ、客観的に評価する。</li> <li>・対象やその家族の身になった状態を想像し、どんな立場なのか、どんな気持ちでいるのか、何を望んでいるのかなど、考え対応する。</li> </ul>
3. 健康障害のある対象の社会的問題について、対象に必要な社会支援は何かを記述できる。	1.社会的苦痛の理解 1)社会的役割の変容や喪失の理解 2)経済的基盤などの喪失 3)周りの人々との関係 2.社会的苦痛の緩和 1)必要なソーシャルサポートの明確化 2)療養生活を支える保健医療福祉制度 ①保健福祉制度 ②医療保険福祉サービス 3)看護活動における社会資源の活用 3.発達課題、発達段階 4.対象を含めた家族全体像の理解 1)家族システムと家族機能に及ぼす影響 2)家族役割に及ぼす影響 3)家族への肯定的な影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種からの情報収集</li> <li>・家族背景や職業的背景などから社会的側面の理解につなげる。</li> </ul> <p>記録テーマ 1 :            「健康障害のある対象に必要な社会支援とは何か」            様式 7 の感想記述欄に記入</p>

目標 2 健康障害の回復過程にある対象との関わりを通して、看護に対する考え方を深めることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 健康障害が対象に及ぼす影響に留意しながら、コミュニケーション環境を整えることができる。	1.コミュニケーション環境調整 2.身体、精神疲労に配慮した意図的なコミュニケーション 1)病態に応じた安楽な体位 2)健康障害が対象に及ぼす影響 3)対象のニーズ	・指導者の助言のもと物理的、人的環境を整える。 ・対象やその家族との関わりを指導者や教員の実践を通して学ぶ。 ・対象及び家族の心理状態に配慮したコミュニケーションを通し、対象及び家族の思いを関係の中から気づき、感じ、考える。 (ZOOM カンファレンスでプロセスレコードの発表)
2. 対象や家族の思いを受け止め、対象の心理過程(受容の段階)に沿った態度で対応することができる。	3.心理状態に配慮したコミュニケーション 1) 患者の行動や言動 2) 非言語的反応と言語の関連性 4.コミュニケーションによる援助 1)傾聴 2)共感 3)受容	・コミュニケーションから対象のニーズを理解し、対象に必要な患者教育とは何かを考える。 ・対象や家族との関わりから自己の傾向(感情、行動、理解、不安等)を知り、他者理解につなげる。

目標 3 対象の健康上の課題を把握し、患者教育方法をふまえながら、個別性に合った看護計画を立案することができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象の社会復帰に向けた看護計画の立案ができる。	1.対象のニーズや身体、心理状態、治療内容を考慮し、社会復帰に向けた看護計画の立案 1)健康障害の回復過程にある対象の QOL を高める援助	・申し送りの参加 ・カルテや多職種からの情報収集
2. 慢性疾患を抱える対象に予測される合併症や二次障害について記述できる。	①対象のニーズ ②病態生理、身体症状、ADL、残存機能 ③コミュニケーション ④情緒的支援 ⑤看護活動における社会資源の活用	・対象との関わりを通して、自身が捉えた患者像と問題点、必要な看護援助を指導者へ伝え、助言を受ける。 ・対象者のニーズをふまえながら健康障害の回復、維持、合併症予防に向け、安全、安楽、自立の視点で計画立案する。
3. 対象や家族のニーズをふまえた期待される成果を記述できる。	2)セルフケア支援 ①ニーズ論 ②セルフケア理論・セルフケア不足理論 ③看護システム理論 ④症状マネジメント	・対象の健康上の課題から、生活の再構築、健康維持、増進に向けた患者教育場面の見学を行い、計画に反映する。
4. 退院を見据え、対象の意志や生活を尊重した患者教育計画を記述できる。	3)ストレスコーピングを促す支援 4)行動変容を促す支援 ①自己効力感	・多職種との関わりを見学し、健康障害の回復に向け、日常生

5. 対象の強みや残存機能を活かした看護援助を立案できる。	②エンパワーメント ③保険信念モデル ④行動変容のステージモデル 5)セルフマネジメントを促す支援 ①患者教育 ②成人学習理論（成人教育学） ③慢性疾患患者のセルフケアマネジメント ④ヘルスプロモーションと健康教育 2.家族介護者への支援 1)介護役割と介護負担 2)役割過重のアセスメント	活の中でも継続して実施できることは何か考え、看護計画に反映する。 ・「対象の安全管理について」 <b>ZOOM</b> カンファレンスを実施し、計画に反映する。
6. 提供した技術と対象の反応を、期待される成果に照らし合わせて、計画の評価・修正ができる。	1.目標達成の分析 1)身体的、心理的、社会的苦痛の緩和状況 2)健康障害の回復状況 3)看護計画実施における対象の満足度 4)疾病や障害の受容過程を用いたアセスメント 2.未達成時の原因の明確化 1)対象、家族のニーズの確認 2)情報分析の適切性 3)慢性、回復期における対象理解のために重要な概念や看護理論（目標 3-1 参照）	・対象や家族の情報を中範囲理論にあてはめ、客観的に評価する。 ・援助実施による対象の反応から、看護計画の妥当性を評価し、追加、修正する。

目標 4 健康障害のある対象および家族への社会復帰を支援する看護が実践できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象の状態や反応を指導者と確かめながら援助を実施することができる。	1.対象のニーズや身体、心理状態、治療内容を考慮し、社会復帰に向けた支援 1)健康障害の回復過程にある対象の QOL を高める援助 ①療養環境、人的環境の調整 ②身体症状の評価 ③残存機能の活用 2)セルフケア支援 3)ストレスコーピングを促す支援 4)行動変容を促す支援 5)セルフマネジメントを促す支援	・指導看護師について症状マネジメントの実際を見学体験する。 ・根拠を持って観察項目を考え、観察する。 ・対象に提供されている看護行為の見学を通し、その対象にとってなぜ必要なのか考える。 ・患者目標や計画した援助方法の根拠の理解、対象の安全、安楽に配慮された援助であるか指導を受ける。 ・援助実施後は「援助の振り返り用紙」を活用し、できたこと、できなかったこと、その原因、誘因、今後の具体策を教員また
2. 社会復帰に向けた対象に必要な患者教育指導とは何かについて説明できる。	2.症状マネジメントの方法の理解と実施	
3. 社会復帰に向けて作成した資料を元に患者教育指導を支援のもと、実施できる。	3.看護活動における社会資源の活用 4.家族介護者への支援（目標 3-1 参照）	

4. 慢性疾患を持つ対象の意志や生活を尊重し、自己決定に向けた支援の必要性について記述できる。		<p>は指導者とともに振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の再構築、健康維持、増進に向けた患者教育計画を実施するために作成した資料やパンフレットを元に、アドバイスを受けながら一部実施する。</li> <li>・立案した計画実施が対象の状態によって困難を伴う場合には、指導者や教員をロールモデルとして学ぶ。</li> </ul> <p>記録テーマ 2： 「自己決定に向けた支援の必要性について」 様式 7 の感想記述欄に記入。</p>
---	--	--

目標 5 慢性期にある対象とその家族を支える保健医療福祉チームの継続的な連携と役割を理解し責任ある行動をとることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 社会復帰に向けた対象や家族を支える保健医療福祉チームの連携の必要性について記述できる。	<p>1.慢性期にある対象と家族を取り巻く関連職種の役割</p> <p>1)医師 2)保健師 2)栄養士 3)薬剤師 4)リハビリスタッフ 5)ソーシャルワーカー 6)訪問看護師</p> <p>2.社会資源活用の必要性</p>	<p>記録テーマ 3： 「保健医療福祉チームの連携の必要性について」 様式 7 の感想記述欄に記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署の見学</li> <li>・保健医療福祉チームカンファレンスの見学</li> <li>・保健医療福祉チームの一員として、得られた情報を言葉の装飾や一連の会話の一部が省略されることなく報告し、指導者や教員からの助言を計画及びその評価に反映する。</li> </ul>
2. 保健医療福祉チームに対し、共感的姿勢で情報を得ることができる。		
3. 保健医療福祉チームから得られた情報を看護計画及びその評価に反映することができる。	<p>3.ケアマネジメント</p> <p>4.看護活動における社会資源の活用</p> <p>5.療養生活を支える保健医療福祉制度</p> <p>1)保健福祉制度 2)医療保険福祉サービス</p> <p>6.看護の倫理原則</p> <p>1)善行と無害 2)正義 3)自律 4)誠実と忠誠の原則</p>	

目標 6 生涯を通してセルフコントロールが必要な対象の思いに関心を持ち、主体的な学習への取り組みができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象のもとへ自ら積極的に関わりを持ち、支持的、共感的態度で接することができる。	1.コミュニケーション（目標 2・1～4 参照） 2.学習者としての姿勢、態度 3.カンファレンスにおける姿勢 1)積極的な発言や意見交換 2)聴く姿勢、相手の意見を理解しようとする姿勢	・実習前のリフレクションシートを活用し、自己の目標を明確にし、学習意欲を高める。 ・実習最終日には本実習における学びから今後の自己の課題を明らかにする。
2. 自己管理、生活調整が必要な対象との関わりで感じたことや気づきから、今後の自己の学習課題を述べることができる。	3)カンファレンスの運営方法	・何事にも疑問を持ち、鵜呑みにせずに自分で調べる。 ・自分の気持ちを表現するなど、積極的な姿勢で実習やカンファレンスに参加する。

## 6. 実習の進め方

### 1 週目

曜日	水	木	金
時間	8:15～12:30	8:15～12:30	9:00～12:00
予定	病棟オリエンテーション ・受持ち対象の選定 ・対象紹介 ・情報収集 ・コミュニケーション	行動計画に基づいた援助の見学、一部実施 ・コミュニケーション ・意図的に情報収集及び分析・解釈を実施	学内実習(分散登校)  ・情報収集をもとに分析・解釈を実施  ・全体像を提出し、教員の指導を受け、追加、修正の実施
時間	12:30～17:00	12:30～17:00	
予定	在宅実習 ・情報、記録の整理 ・15:00～ ZOOM ・教員のアドバイスを受け、看護の方向性の確認 ・CFの実施	在宅実習 ・情報、分析・解釈の実施 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	
CF	・本実習における自己の課題と目標	対象の安全管理について	
記録	様式 4-1 リフレクションシート	様式 1-1、2、4-2、4-2 援助の振り返り	様式 1-1、2、3、4-2 援助の振り返り

### 2 週目

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15～12:30	8:15～12:30	8:15～12:30	8:15～12:30	9:00～12:00
予定	・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施			中間評価面談	学内実習(分散登校)  看護過程、看護計画の修正
時間	12:30～17:00	12:30～17:00	12:30～17:00	12:30～17:00	
予定	在宅実習 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	在宅実習 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	在宅実習 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	在宅実習 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	
CF	プロセスレコード発表	アセスメント 全体像発表		優先順位とその根拠 看護計画発表	
記録	様式 1-1、2、3、4-2 援助の振り返り プロセスレコード	様式 1-1、2、3、4-2 援助の振り返り	様式 1-1、2、3、4-2 援助の振り返り	様式 1-1、2、3、4-2、5、6、援助の振り返り、実習評価表	様式 5、6

### 3 週目

### 4 週目

曜日	月	火	水	月	火
時間	8:15～12:30	8:15～12:30	8:15～12:30	8:15～12:30	9:00
予定	・看護計画に沿って援助を実施する ・対象の反応を捉えながら援助を実施し、実施・評価を行う		看護計画に沿って援助を実施する ・対象の反応を捉えながら援助を実施し、実施・評価を行う	最終評価面談 記録の整理	記録提出
時間	12:30～17:00	12:30～17:00	12:30～17:00	12:30～17:00	
予定	在宅実習 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	在宅実習 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	在宅実習 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	在宅実習 ・記録の整理 ・15:00～ ZOOM CFの実施 記録指導	
CF				リフレクションシート 「自己管理、生活調整が必要な対象における看護師の姿勢」	
記録	様式 5、6、7、援助の振り返り	様式 5、6、7 援助の振り返り	様式 5、6、7 援助の振り返り、実習評価表	様式 5、6、7、リフレクションシート 援助の振り返り、実習評価表	実習記録全て

実習評価表 実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 変更なし

実習グループ G 学籍番号 \_\_\_\_\_ 学生氏名 \_\_\_\_\_

	評価項目	中間評価	最終評価	教員・指導者 評価
目標 1	1. 対象の抱える身体的問題について、退院後の生活を見据えて、説明できる。			
	2. 対象や家族の心理的問題について、中範囲理論を用いて説明できる。			
	3. 健康障害のある対象の社会的問題について、対象に必要な社会支援は何かを記述できる。			
目標 2	1. 健康障害が対象に及ぼす影響に留意しながら、コミュニケーション環境を整えることができる。			
	2. 対象や家族の思いを受け止め、対象の心理過程(受容の段階)に沿った態度で対応することができる。			
目標 3	1. 対象の社会復帰に向けた看護計画の立案ができる。			
	2. 慢性疾患を抱える対象に予測される合併症や二次障害について記述できる。			
	3. 対象や家族のニーズをふまえた期待される成果を記述できる。			
	4. 退院を見据え、対象の意志や生活を尊重した患者教育計画を記述できる。			
	5. 対象の強みや残存機能を活かした看護援助を立案できる。			
	6. 提供した技術と対象の反応を、期待される成果に照らし合わせて、計画の評価・修正ができる。			
目標 4	1. 対象の状態や反応を指導者と確かめながら援助を実施することができる。			
	2. 社会復帰に向けた対象に必要な患者教育指導とは何かについて説明できる。			
	3. 社会復帰に向けて作成した資料を元に患者教育指導を支援のもと、実施できる。			
	4. 慢性疾患を持つ対象の意志や生活を尊重し、自己決定に向けた支援の必要性について記述できる。			
目標 5	1. 社会復帰に向けた対象や家族を支える保健医療福祉チームの連携の必要性について記述できる。			
	2. 保健医療福祉チームに対し、共感的姿勢で情報を得ることができる。			
	3. 保健医療福祉チームから得られた情報を看護計画及びその評価に反映することができる。			
目標 6	1. 対象のもとへ自ら積極的に関わりを持ち、支持的、共感的態度で接することができる。			
	2. 自己管理、生活調整が必要な対象との関わりで感じたことや気づきから、今後の自己の学習課題を述べることができる。			
学生コメント		指導者コメント		
		サイン		
		教員コメント		
自己評価合計点      サイン		サイン		
欠席合計時間 時間      分		総合評価点 サイン		

評価基準    5：達成    3：一部達成    1：未達成



## 成人看護学実習Ⅱ(急性期)

### 1. 目的

急性期・周手術期にある対象を理解し、危機的な状況から回復を促進するための看護ができる能力を養う。

### 2. 目標

- 1) 急激な身体侵襲を受けた対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解することができる。
- 2) 急性期にある対象や家族の心理状況を踏まえて関わることができる。
- 3) 身体侵襲による合併症を予防し、退院後の生活に向け順調に回復するための看護計画が立案できる。
- 4) 急激な身体侵襲からの回復過程を促進する看護が実践できる。
- 5) 急性期にある対象を支える保健医療福祉チームでの看護師の役割が理解でき、責任ある行動をとることができる。
- 6) 身体侵襲を受けた対象やその家族の思いに関心を持ち、主体的に学習できる。

### 3. 実習構成

成人看護学実習Ⅱ 2単位(90時間)	時間数	実習施設
	1.5時間	イムス横浜国際看護専門学校
	88.5時間	イムス横浜狩場脳神経外科病院、 菊名記念病院、東戸塚記念病院、 横浜旭中央総合病院、 横浜新都市脳神経外科病院

### 4. 患者選定条件

- 1) 複数の既往疾患を抱えておらず、全身麻酔で手術を受ける成人期にある患者。または、低侵襲手術を受ける成人期にある患者。  
※火曜日は午前実習、金曜日は学内実習日のため、火曜日の午後、木曜日、金曜日以外に検査や治療（手術）が予定されている患者。
- 2) 基本的に検査、治療（手術）前から検査、治療（手術）後を継続して受け持つことが可能である患者。
- 3) 手術見学については、原則として受け持ち患者の手術を見学する。すでに手術を終えて回復過程にある患者を受け持つ学生や受け持ち患者に手術見学の同意が得られない場合は、学生が受け持ち患者の身に起こったことと関連づけられるように、受け持ち患者と近い術式の患者の承諾を得て手術見学を行う。

### 5. 実習目標に関する学習内容

目標1 急激な身体侵襲を受けた対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解することができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 救急医療や集中治療を受ける対象の身体的、心理的特徴を記述できる。	1.救急医療の現状 1)発症様式と身体的特徴 2)対象と家族の心理的特徴 2.集中治療を受ける対象の看護	・事前学習の活用 ・1週目の見学実習を通し、病棟との環境の違いによる対象への影響や看護師の役割の特徴、安全管理などについて学び、見学実習記録に記述する。
2. 治療環境が対象に及ぼす影響を記述できる。	1)生命が危機的状況にある対象の特徴 ①治療環境、使用されている医療機器、器材 ②対象の身体的特徴 ③対象の心理、社会的特徴	・「救急外来における安全管理について」

	2)ICU/CCU/HCU ①入室対象となる病態、疾患 ②集中治療における看護の実際 ③安全な環境の維持、管理 3)回復に向けた看護	「ICU/CCU における安全管理について」 カンファレンスを実施し、記録に反映する。
3. 対象の身体的問題について生体侵襲理論に基づき、説明できる。	1.生体侵襲理論 1)手術侵襲 ①侵襲に対する生体反応 ②サイトカインによる生体調節機構 ③手術侵襲の評価 2)炎症 ①急性炎症と慢性炎症 ②局所の炎症と全身性炎症反応 ③炎症の治療 3)感染症 ①感染症の発生とその防御機構 ②外科感染症（SSI） 4)創傷治癒 ①創傷治癒過程 ②創傷の治癒形式 ③創傷治癒に影響する因子 ④創傷管理法 ⑤創傷治癒促進 ⑥創傷治癒過程における合併症に対するケア	・成人看護学方法論Ⅱ-A・Ⅱ-Bの授業資料や事前学習の活用 ・受け持ち患者の病態関連図作成 ・病態および治療法を情報収集し、整理する。 ・S、O データが何を意味しているのか、助言を受けてアセスメントを進める。 ・生体侵襲理論に基づき、身体的問題を捉え、対象の身体的苦痛の理解につなげる。
4. 急激な身体侵襲を受ける対象の心理的側面を、危機モデルを活用して説明できる。	1.危機モデルを使ったアセスメント 1)フィンの危機モデル 2)アギュララとメズイック 2.発達課題・発達段階 1)ハヴィガーストの発達理論 2)エリクソンの発達理論 3.社会的苦痛の理解 1)社会的役割の変容や喪失の理解 2)経済的基盤などの喪失 3)周りの人々との関係 4.療養生活を支える保健医療福祉制度 1)保健福祉制度 2)医療保険福祉サービス 3)看護活動における社会資源の活用 5.対象を含めた家族全体像の理解 1)家族システムと家族機能に及ぼす影響 2)家族役割に及ぼす影響 3)家族への肯定的な影響	・対象の情報を、中範囲理論を活用して客観的に評価する。 ・発達段階や発達課題を踏まえ、アセスメントする。 ・対象や家族との関わりを通して、危機的状況にある対象及び家族の思いを関係の中から理解し、記録に反映する。 ・心理状態に配慮したコミュニケーションの実施 ・家族背景や職業的背景などから社会的側面の理解につなげ、全体像やアセスメントに反映する。
5. 急性期にある対象の社会的側面を理解できる。		

目標 2 急性期にある対象や家族の心理状況を踏まえて関わることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象に及ぼす影響に留意しながら、コミュニケーション環境を整えることができる。	1.身体、精神疲労に配慮したコミュニケーション環境の調整 1)病態に応じた安楽な体位 2)音や光などの環境調整 2.心理状態に配慮したコミュニケーション	・指導者の助言のもと物理的、人的環境を整える。 ・対象やその家族の関わりを指導者や教員の実践を通して学ぶ。
2. 危機的状況にある対象や家族の思いを受け止め、対象の心理過程に沿った態度で対応することができる。	1)フリンクの危機モデル 2)アギュララとメズニック 3.コミュニケーションによる援助 1)対象の覚醒状況に合わせた説明 2)心の整理と意思決定の支援 3)心理的援助 ①不安の緩和 ②身体像（ボディイメージ）変容の受容に対する支援 ③自己管理に向けた支援	・成人看護学方法論Ⅱ-A・Ⅱ-Bの授業資料や事前学習の活用 ・対象やその家族の身になった状態を想像し、どんな立場なのか、どんな気持ちでいるのか、何を望んでいるのかなど、関わりの中から感じ、考え、危機モデルを元に、対象の心理過程に沿った態度で対応する。

目標 3 身体侵襲による合併症を予防し、退院後の生活に向け順調に回復するための看護計画が立案できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 急激な身体侵襲からの回復を促進するための看護計画を、個別性を踏まえて立案できる。	1.外科的治療の実際 1)切開、縫合、抜糸、止血、胃管挿入、体腔穿刺 2)低侵襲手術 3)合併症や機能障害が起こるリスク	・申し送りの参加 ・カルテからの情報収集 ・成人看護学方法論Ⅱ-A・Ⅱ-Bの授業資料や事前学習の活用 ・対象との関わりを通して、自身が捉えた患者像と問題点、必要な看護援助を指導者へ伝え、助言を受ける。
2. 身体侵襲により起こりやすい合併症の予防と発症時の対応をふまえた看護援助を立案できる。	4)入室から麻酔導入までの支援 ①患者確認 ②不安の緩和 5)手術体位の介助 ①手術体位が及ぼす影響 ②褥瘡発生要因 ③手術体位と神経障害発生要因	・指導看護師について症状マネジメントの実際を見学体験 ・症状と身体侵襲による生体反応や起こりやすい合併症を関連させ、分析解釈を行う。
3. 侵襲がもたらす生体反応を科学的根拠に基づき分析解釈することができる。	6)術中の管理 ①起こりやすい合併症 ②呼吸、循環、体温管理 ③出血量、尿量測定 ④保温	・実習中、手術室見学を行い、外回り看護師について見学体験し、術中看護や手術室看護師の役割について理解を深める。
4. 対象とその家族の持つ課題の優先順位の判断を、根拠と共に記述できる。	2.麻酔法 1)麻酔の種類と特徴 2)麻酔薬が及ぼす対象への影響 3)麻酔導入時の介助 4)麻酔覚醒時の支援	・手術室見学の際には対象にとって必要な観察を、根拠を持って行い、病態や術式、使用薬剤や麻酔との関連を踏まえて報告、実習記録や手術室見学記録

<p>5. 麻酔や手術による対象の反応を観察、分析し、対象の状態を記述できる。</p>	<p>3.回復を促進するための看護計画の立案</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)対象の身体的、心理的、社会的変化</li> <li>2)環境構成</li> <li>3)早期離床の促進</li> <li>4)手術後の疼痛管理</li> <li>5)輸液と栄養の適切な管理</li> <li>6)ドレーン管理</li> </ol> <p>4.術後合併症の発生機序と予防</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)術後出血</li> <li>2)循環器、呼吸器、精神・神経、消化器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、運動器系合併症</li> <li>3)術後感染症</li> </ol> <p>5.自己管理に向けた支援</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)形態変化や機能障害に対する適応への援助</li> <li>2)退院指導と継続看護</li> </ol> <p>6.在宅療養に向けた看護</p>	<p>用紙に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスを活用し、メンバーや指導者、教員より助言を受ける。</li> <li>・指導看護師の関わりから、対象における身体侵襲からの回復を促進するための援助とは何か考え、看護計画に反映する。</li> <li>・術後合併症予防に向け、対象の安全、安楽の視点で計画を立案する。</li> <li>・対象や家族の情報を理論に当てはめ、客観的に評価する。</li> </ul>
<p>6. 提供した技術と対象の反応を、期待される成果に照らし合わせて、計画の評価・修正ができる。</p>	<p>1.計画の評価、修正</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)目標達成の分析 <ol style="list-style-type: none"> <li>①身体的、精神的、社会的苦痛の緩和状況</li> <li>②身体の回復状況</li> <li>③計画実施における対象の満足度</li> </ol> </li> <li>2)未達成時の原因の明確化 <ol style="list-style-type: none"> <li>①対象や家族のニーズの確認</li> <li>②情報分析の適切性</li> <li>③目標設定の妥当性</li> </ol> </li> </ol>	

目標 4 急激な身体侵襲からの回復過程を促進する看護が実践できる。

行動目標	学習内容	学習方法
<p>1. 身体侵襲からの回復過程に合わせた日常生活援助を安全、安楽に実施できる。</p>	<p>1.手術前患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)全身状態を整えるための支援</li> <li>2)心の整理と意思決定の支援</li> <li>3)手術に向けた患者教育、指導</li> <li>4)手術前の具体的援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>①術前オリエンテーション</li> <li>②心理的援助 不安の緩和、ボディイメージの変容に対する支援</li> </ol> </li> </ol> <p>2.手術中患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)安全な環境の管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>①微生物の侵入に対する防御</li> <li>②手指消毒と个人防护具の着用</li> <li>③無菌操作</li> </ol> </li> <li>2)病棟への引き継ぎ</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導看護師、手術室看護師について症状マネジメントの実際を見学体験する。</li> <li>・助言を受けた結果を追加、修正した上で、看護計画に沿った看護援助を実施。</li> <li>・対象に提供されている看護行為の見学を通し、その対象にとってなぜ必要なのか考える。</li> <li>・患者目標や計画した援助方法の根拠の理解、対象の安全、安楽に配慮された援助であるか指導を受ける。</li> <li>・立案した計画実施が対象の状態によって困難を伴う場合に</li> </ul>

<p>2. 合併症を予防するための看護援助を、支援を受けながら実施できる。</p>	<p>①情報提供 ②安全な移乗、移送</p> <p>3.手術後管理</p> <p>1)呼吸管理、酸素療法</p> <p>2)体液管理</p> <p>①体液の構成と調節 ②輸液法</p> <p>3)栄養管理</p> <p>①栄養管理の重要性 ②栄養状態の評価 ③栄養管理の実際</p> <p>4)輸血療法</p> <p>①輸血用血液製剤の種類と特徴 ②輸血に関する検査、輸血実施手順 ③輸血副作用 ④安全な輸血医療</p> <p>4.手術後の回復を促進するための看護の実践</p> <p>1)手術後の看護目標</p> <p>2)対象の身体的、心理、社会的変化による苦痛の緩和</p> <p>①症状マネジメントの理解と実施 ②対象のニーズを反映させた看護計画の立案 ③安楽な体位 ④精神、社会的苦痛の緩和</p> <p>3)環境調整</p> <p>4)早期離床の促進</p> <p>5)手術後の疼痛管理</p> <p>6)輸液と栄養の適切な管理</p> <p>7)ドレーン管理</p> <p>5.術後合併症の発生機序</p> <p>6.術後合併症の予防に向けた援助</p> <p>7.退院、自己管理に向けた援助</p> <p>8.対象や家族の S、O 情報の正確な記載と報告 4)</p> <p>早期離床の促進</p> <p>5)手術後の疼痛管理</p> <p>6)輸液と栄養の適切な管理</p> <p>7)ドレーン管理</p> <p>5.術後合併症の発生機序</p> <p>6.術後合併症の予防に向けた援助</p> <p>7.退院、自己管理に向けた援助</p> <p>8.対象や家族の S、O 情報の正確な記載と報告</p>	<p>は、指導者や教員をロールモデルとして学ぶ。</p> <p>・状態や反応を確かめながら援助を実施し、実施後は「援助の振り返り用紙」を記入し振り返る。</p> <p>・対象の回復促進に向けた援助とは何かを考え、計画に反映する。</p> <p>・カンファレンスで情報共有、他者からの意見も聴き、援助に反映する。</p>
---	---	---

目標 5 急性期にある対象を支える保健医療福祉チームにおける看護師の役割が理解でき、責任ある行動をとることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 救急看護の役割について述べることができる。	1.救急看護の実際 1)救急医療の現状 2)発症様式の特徴 3)対象と家族の心理的特徴 2.救急看護の役割 1)初期情報の迅速な収集 2)救急医療の場のマネジメント 3)対象と家族の心理への支援 4)地域医療に組み込まれる救急医療 3.救急患者発生時の看護 1)初期対応 2)初期情報からのアセスメント、トリアージ 3)初期診断、治療への援助 4)継続看護 4.集中治療を受ける対象の看護 1)治療環境 2)ICU/CCU/HCU における管理、運営、設備条件 3)集中治療における看護の実際 4)安全な環境の維持、管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習の活用</li> <li>・カンファレンス</li> </ul> 「救急看護の役割」について、カンファレンスを実施し、自己の考えを述べる。
2. 周手術期における保健医療福祉チームの中での看護師の役割について記述できる。	1.医療環境の変遷と看護業務の変化 2.チーム医療と看護師の役割 3.インフォームドコンセントにおける看護師の役割 4.周手術期における安全管理 1)医療を取り巻く状況 2)周手術期に起こりやすい危険な事態と要因 3)危険防止対策 4)危機管理（リスクマネジメント）の重要性 5.院内感染予防 1)標準予防策と感染経路別予防策、滅菌物の管理 2)血液、体液曝露対策 3)感染管理組織の活動と役割 4)病院感染サーベイランス 6.看護の倫理原則 7.目標 3-1～6 参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術室(血管造影室、内視鏡室など)への申し送り内容や、申し送り場面、連携場面の見学</li> <li>・看護師と他職種との関わりを見学</li> <li>・他職種カンファレンスの見学レポート</li> <li>・手術室見学、体験を通し、「周手術期における看護師の役割」についてレポートを提出 A4サイズ(教育課程:レポートの作成参照)800 字程度 手術室見学の翌日 9 時提出</li> <li>・カンファレンス</li> </ul> 「周手術期における安全管理について」
3. 症状と身体侵襲による生体反応や起こりやすい合併症を関連させ、アセスメントを含めた報告ができる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた時間に、言葉の装飾や一連の会話の一部が省略されることなく報告する。</li> </ul>

目標 6 身体侵襲を受けた対象やその家族の思いに関心を持ち、主体的に学習できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 周手術期に求められる看護師の役割から、求められる姿勢について記述することができる。	1.問題解決のための学習方法や学習内容の活用方法 2.状況把握力、課題発見力、実行力、発信力 3.周手術期に求められる看護師の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察記録には、見たものや聞いたことだけではなく、見学したことからの気づきや学びを記述する。</li> <li>・実習前のリフレクションシートを活用し、自己の目標を明確にし、学習意欲を高める。</li> <li>・実習最終日には本実習における学びから今後の自己の課題を明らかにする。</li> <li>・積極的な姿勢で実習やカンファレンスに参加する。</li> </ul> <p>記録テーマ： 「周手術期に求められる看護師の姿勢」</p> <p>様式 6 の感想記述欄に記入</p>
2. 身体侵襲を受ける対象やその家族との関わりの中で感じたことや気づきから、今後の自己の学習課題を述べるができる。		

## 6. 実習の進め方

### 1 週目

曜日	月	火	水	木
時間	8:15～17:00	8:15～17:00	8:15～17:00	8:15～17:00
予定	手術室オリエンテーション 外来実習 → ・診療補助技術の見学 ・医療チームと看護師の連携について見学	→	ICU/SCU 実習 → ・集中治療室における看護の実際について見学	→
CF	救急外来における安全管理		ICU/SCU における安全管理	救急看護の役割
記録	見学実習記録	見学実習記録	見学実習記録	見学実習記録

### 2 週目

曜日	月	火	水	木
時間	8:15～17:00	8:15～14:30	8:15～17:00	8:15～17:00
予定	病棟オリエンテーション ・受持ち対象の選定 ・対象紹介 ・情報収集 ・コミュニケーション	情報整理と分類 分析解釈 ・コミュニケーション ・意図的に情報収集、及び分析解釈を実施 ・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施 ・病態関連図作成	分析解釈 ・情報収集をもとに分析解釈を実施 → ・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施	全体像描写 → 中間評価面談
CF	・本実習における自己の課題と目標 ・受け持ち患者紹介、情報共有	周手術期における安全管理	アセスメント発表	全体像の発表
記録	リフレクションシート、様式 1-1	様式 1-2、2	様式 1-2、2	様式 1-2、2、3

### 3 週目

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15～17:00	8:15～14:30	8:15～17:00	8:15～14:30	9:00
予定	・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施	・看護計画に沿って援助を実施する → ・対象の反応を捉えながら援助を実施し、実施・評価を行う	→	→ 最終評価面談	記録提出
CF	看護計画発表 優先順位の決定と根拠			リフレクションシート	
記録	様式 1-2、4、5	様式 5、6	様式 5、6 実習評価表	様式 5、6 リフレクションシート	実習記録すべて レポートを提出

※手術室見学記録用紙は手術室見学翌日に提出とする。



3. 実習評価表 実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

実習グループ G 学籍番号 \_\_\_\_\_ 学生氏名 \_\_\_\_\_

	評価項目	中間評価	最終評価	教員・指導者 評価
目標 1	1.救急医療や集中治療を受ける対象の身体的、心理的特徴を記述できる。			
	2.治療環境が対象に及ぼす影響を記述できる。			
	3.対象の身体的問題について生体侵襲理論に基づき説明できる。			
	4. 急激な身体侵襲を受ける対象の心理的側面を、危機モデルを活用して説明できる。			
	5.急性期にある対象の社会的側面を理解できる。			
目標 2	1.対象に及ぼす影響に留意しながら、コミュニケーション環境を整えることができる。			
	2.危機的状況にある対象や家族の思いを受け止め、対象の心理過程に沿った態度で対応することができる。			
目標 3	1.急激な身体侵襲からの回復を促進するための看護計画を、個別性を踏まえて立案できる。			
	2.身体侵襲により起こりやすい合併症の予防と発症時の対応をふまえた看護援助を立案できる。			
	3.侵襲がもたらす生体反応を科学的根拠に基づき分析解釈することができる。			
	4.対象とその家族の持つ課題の優先順位の判断を、根拠と共に記述できる。			
	5.麻酔や手術による対象の反応を観察、分析し、対象の状態を記述できる。			
	6.提供した技術と対象の反応を、期待される成果に照らし合わせて、計画の評価・修正ができる。			
目標 4	1. 身体侵襲からの回復過程に合わせた日常生活援助を安全、安楽に実施できる。			
	2. 合併症を予防するための看護援助を、支援を受けながら実施できる。			
目標 5	1.救急看護の役割について述べるができる。			
	2.周手術期における保健医療福祉チームの中での看護師の役割について記述できる。(レポートを提出)			
	3.症状と身体侵襲による生体反応や起こりやすい合併症を関連させ、アセスメントを含めた報告ができる。			
目標 6	1.周手術期に求められる看護師の役割から、求められる姿勢について記述することができる。(記録テーマ)			
	2.身体侵襲を受ける対象やその家族との関わりの中で感じた事や気づきから、今後の自己の学習課題を述べるができる。			
学生コメント		指導者コメント		
		サイン		
		教員コメント		
自己評価合計点          サイン		サイン		
欠席合計時間		総合評価点		
時間          分		サイン		

評価基準      5：達成      3：一部達成      1：未達成

## 成人看護学実習Ⅲ（慢性終末期）

### 1. 目的

疾病の受容過程にある対象および家族を全人的に理解し、対象に求められる「生きる」を支えるための看護とは何かについて考え、実践できる能力を養う。

### 2. 目標

- 1) 対象者を全人的に理解することができる。
- 2) 疾病の受容過程にある成人期の対象との関わりを通し、看護に対する考えを深めることができる。
- 3) 対象者の受容過程を理解し、全人的な視点で看護展開できる。
- 4) 対象者の安寧（well-being）に向けた援助を実施できる。
- 5) 疾病の受容過程にある対象を支える様々な関連職種が存在の重要性を理解すると共に、チームにおける看護師の役割を説明できる。
- 6) 疾病の受容過程にある対象の思いに関心を寄せ、主体的に苦痛の緩和に向けた姿勢で学ぶことができる。

### 3. 実習構成

成人看護学実習Ⅲ 2単位（90時間）	時間数	実習施設
	1.5時間	イムス横浜国際看護専門学校
	88.5時間	相原病院、イムス横浜狩場脳神経外科病院、 菊名記念病院、東戸塚記念病院、横浜旭中央 総合病院、横浜新都市脳神経外科病院

### 4. 患者選定条件

- 1) 疾病の受容過程にある成人期の患者
- 2) 緩和ケアを必要とする患者

## 5. 実習目標に関する学習内容

目標 1 対象者を全人的に理解することができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象の抱える身体的苦痛について病態と症状を関連させ、説明できる。	1.慢性疾患の特徴 1)進行性の慢性疾患 2)ターミナル期に至る慢性疾患 2.身体的苦痛の理解 1)身体症状とそのメカニズム ①疾患の病態生理、解剖生理 ②疼痛、全身倦怠感、食欲不振、呼吸困難、吐気、嘔吐など ③身体機能の障害による生活機能の障害 ④難病 ⑤身体症状の増悪因子と緩和因子 2)治療、検査が身体に及ぼす影響 ①日常生活と関連した療養法 ②日常生活や社会生活の制約をもたらす治療 ③長期にわたる自己管理 3)健康な状態（気力、運動、意思伝達、排泄能力など）や身体部分（器官・組織、毛髪、体重、性的能力など）の喪失	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習、事後学習の活用</li> <li>・受け持ち患者の病態関連図を作成する。</li> <li>・疾病の発生機序や病態の進行度および治療法を情報収集し、整理する。</li> <li>・S、O データが何を意味しているのか、助言を受けてアセスメントを進める。</li> <li>・対象の健康上の問題を捉え、対象の身体的苦痛の理解につなげる。</li> </ul>
2. 疾病の受容過程にある対象及び家族の精神的苦痛とその要因について中範囲理論を用いて、説明できる。	1.精神的苦痛の理解 1)精神的苦痛 不安、いらだち、うつ状態、怒りなど 2)中範囲理論を用いたアセスメント ①疾病受容 疾病の認識、受容過程、喪失体験 ②死の受容過程 キューブラー・ロス ③危機モデルからみた疾病の受容 フィנקの危機モデル、アギュララとメズニック ④適応過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象及び家族の情報を中範囲理論に当てはめ、客観的に評価する。</li> <li>・発達段階や発達課題を踏まえ、アセスメントする。</li> <li>・多職種からの情報収集</li> <li>・家族背景や職業的背景などから社会的問題の理解につなげる。</li> <li>・対象及び家族との関わりから、必要な社会資源は何かを考える。</li> </ul>
3. 疾病の受容過程にある対象及び家族の社会的苦痛を明確にし、必要な社会支援が何か記述できる。		

<p>4. 対象の抱えるスピリチュアルペインを実際の関わりを通し、明らかにすることができる。</p>	<p>ストレスコーピング理論 ⑤病みの軌跡理論</p> <p>2.スピリチュアルペインの理解</p> <p>1)スピリチュアルペインの表現</p> <p>①時間存在である人間 ②関係存在である人間 ③自律存在である人間</p> <p>3.ライフサイクルに関する理論と発達課題</p> <p>1)ハヴィガーストの発達理論 2)エリクソンの発達理論</p> <p>4.社会的苦痛の理解</p> <p>1)社会的役割の変容や喪失の理解 2)経済的基盤などの喪失 3)周りの人々との関係</p> <p>5.社会的苦痛の緩和</p> <p>1)対象に必要なソーシャルサポートの明確化 2)療養生活を支える保健医療福祉制度</p> <p>①保健福祉制度 ②医療保険福祉サービス 3)看護活動における社会資源の活用</p> <p>6.対象を含めた家族全体像の理解</p> <p>1)家族システムと家族機能に及ぼす影響 2)家族役割に及ぼす影響 3)家族への肯定的な影響</p>	<p>記録テーマ1:</p> <p>「疾病の受容過程にある対象に必要な社会的苦痛の緩和に向けた支援とは何か」</p> <p>様式6 感想記述欄に記入。</p> <p>・対象や家族との関わりを通し、疾病の受容過程にある対象及び家族の思いを関係の中から気づき、感じ、考える。</p>
--	---	---

目標2 疾病の受容過程にある成人期の対象との関わりを通し、看護に対する考えを深めることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
<p>1. 疾病の受容過程に沿いながら、対象や家族の思いを受け止め、対象の心理過程に沿った態度で対応することができる。</p>	<p>1.対象の生に対する思いや価値観、生きがい、生きる希望</p> <p>2.中範囲理論を用いたアセスメント</p> <p>①危機理論を活用した予期悲嘆の理解 ②疾病の受容過程 フィンクの危機モデル ③死の受容過程 ④適応過程 ストレスコーピング理論</p> <p>3.看護職者が行う心理的サポートの意味</p> <p>①看護における人間関係理論 ペプロウ、トラベルビー ②現象学的理論 C.ロジャース ③病みの軌跡理論</p>	<p>・事前学習の活用</p> <p>・対象の身体、精神疲労に配慮し、物理的、人的コミュニケーション環境を整える。</p> <p>・対象やその家族の関わりを指導者や教員の実践を通して学ぶ。</p> <p>・対象や家族との関わりを通して、疾病の受容過程にある対象及び家族の思いを関係の中から気づき、感じ、考える。 (プロセスレコードの発表)</p> <p>・中範囲理論を用いて対象の心理過程を理解し、看護職者としての心理的サポートの意味を考えながら対応する。</p>

2. 受容過程にある対象や家族との関わりから、「生きるを支える上で求められる看護師の資質」について考え、述べることができる。	1.「生きる」ことの意味 1)「生きる」と「生きている」の違い 2)対象の命は支えている人びとすべての命 3)途絶えることのない「受け継がれるいのち」	カンファレンステーマ 「生きるを支える上で求められる看護師の資質」 実習での体験や看護師の関わりを共有し、一緒に考え、話し合いながらカンファレンスを進める。
--	--	--

目標 3 対象者の受容過程を理解し、全人的な視点で看護展開できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象の苦痛の緩和に向けた看護計画の立案ができる。	1. 症状緩和を中心とした看護計画の立案 1)症状マネジメントに必要な情報収集と分析 2)症状メカニズムとそのマネジメント (倦怠感、痛み、浮腫、呼吸器、消化器症状など)	・申し送りの参加 ・カルテからの情報収集 ・対象との関わりを通して、自身が捉えた患者像と問題点、必要な看護援助を指導者へ伝え、助言を受ける。
2. 家族の思いに立ち、家族が抱える苦痛の緩和に向けた援助の方向性を記述できる。	3)対象の身体的苦痛の理解 4)対象及び家族の意向、ニーズ 5)対象の現在および予測される看護上の問題 6)優先順位の決定とその根拠 7)対象や家族のニーズをふまえた期待される成果	・対象にとって必要な観察は何かを病態や症状から考え、根拠を持って観察する。 ・指導看護師による症状マネジメントの実際を見学体験
3. 症状マネジメントの実際を見学し、看護計画立案に活かすことができる。	2.心理、社会的、霊的苦痛の緩和に向けた援助の方向性 1)慢性、終末期における対象理解のために重要な概念や看護理論を用いたアセスメント ①病みの軌跡理論 対象の病みの行路の理解、軌跡の管理に影響を及ぼす条件 ②危機理論の心理過程 ③疾病や死の受容過程	・他職種の面談結果などを基に家族の情報を得て、看護過程や計画に反映する。 ・指導看護師の関わりや中範囲理論を活用し、対象の苦痛を緩和するための支持的援助を看護計画に反映する。
4. 対象の自己概念などの個別性を踏まえた看護計画が立案できる。	2)成人期の発達段階と発達課題に関連した心理・社会的問題 3)対象の抱えるスピリチュアルペインの理解とその援助	記録テーマ2: 「スピリチュアルケアの必要性について」 様式6 感想記述欄に記入。 ・苦痛緩和、合併症予防に向け、対象の安全、安楽の視点で計画を立案する。
5. スピリチュアルケアの必要性について表現できる。	3.家族介護者への支援 1)家族のニーズの充足 2)予期悲嘆の理解、援助 3)役割移行への援助 4)意志決定への援助 5)家族対処の促進への援助	カンファレンステーマ 「対象の安全管理について」 カンファレンス実施後は計画に反映する。
6. 実施した看護援助による対象の反応から、看護計画の評価・修正ができる。	4.目標達成の分析 1)身体的、心理的、社会的苦痛の緩和状況 2)看護計画実施における対象の満足度 3)疾病や死の受容過程を用いたアセスメント 4)未達成時の原因の明確化	・援助実施による対象の反応から、看護計画の妥当性を評価し、修正する。 ・対象や家族の情報を理論に当てはめ、客観的に評価する。

	①対象、家族のニーズの確認 ②情報分析の適切性 ③慢性、終末期における対象理解のために重要な概念や看護理論	
--	---	--

目標 4 対象者の安寧（well-being）に向けた援助を実施できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象が、その人らしく生きるための援助ができる。	1. 対象のニーズや身体的、心理的、社会的苦痛の緩和に向けた支援 1)身体的苦痛緩和のための援助計画立案と援助の実施 ①対象のニーズに沿った療養環境の調整（病室、ベッド周囲の整備） ②対象のニーズに沿った医療従事者、及び家族を含む面会者などの人的環境 ③身体症状とその評価方法の明確化 ④対象のニーズを反映させた看護計画の立案 ⑤対象の状態に応じた援助の実施 ⑥症状マネジメントの方法の理解と実施 2)精神、社会的、霊的苦痛の緩和 ①積極的傾聴と時間の共有 ②対象者に必要なソーシャルサポートの明確化 ③自己実現に向けた援助計画立案と援助の実施 3)家族が満足する看護実践	・対象に提供されている看護行為の見学を通し、その対象にとってなぜ必要なのかを考え、実施につなげる。 ・患者目標や計画した援助方法の根拠の理解、対象の安全、安楽に配慮された援助であるか指導を受ける。 ・立案した計画実施が対象の状態によって困難を伴う場合には、指導者や教員をロールモデルとして学ぶ。 ・状態や反応を確かめながら援助を実施し、実施後は「援助の振り返り用紙」を記入し、教員、指導者と振り返る。 ・対象の意向から、対象らしい生活とは何かを考え、実施する。
2. 対象の安全を守り、苦痛の緩和に向けた援助の実施ができる。		

目標 5 疾病の受容過程にある対象を支える様々な関連職種の存在の重要性を理解すると共に、チームにおける看護師の役割を説明できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象にとって適切な療養環境とは何かについて述べるができる。	1.対象にとって快適な療養環境 1)物理的療養環境 2)家族を含めた人的環境 3)面会状況などの社会的環境	・各部署の見学 ・多職種スタッフとも積極的にコミュニケーションを図り、対象理解を深める。
2. 緩和医療における看護師の役割について説明できる。	2.疾病や死の受容過程にある対象と家族を取り巻く看護者以外の関連職種の役割 1)医師 2)栄養士 3)薬剤師 4)リハビリスタッフ 5)臨床検査技師 6)ソーシャルワーカー 3.チームにおける看護師の役割 1)緩和医療を受ける対象が看護師に望むこと	・他職種カンファレンスの参加や看護師と他職種との関わりを見学し、多職種が看護師に求めることは何かを考える。 記録テーマ3： 「緩和医療における看護師の役割」 様式 6 感想記述欄に記入。

	2)様々な医療職との調整者としての役割 4.多職種から情報を得る必要性	
3. 全人的視点で得られた情報を正確に報告できる。	1.全人的視点で捉えることの重要性 2.保健医療福祉チームの一員としての役割 3.対象や家族の S、O 情報の正確な記載と報告 4.症状と病態を関連させ、アセスメントを含めた報告 5.看護の倫理原則 1)善行と無害 2)正義 3)自律 4)誠実と忠誠の原則	・言葉の装飾や一連の会話の一部が省略されることなく報告する。 ・グループメンバー、教員、指導者への報告

目標 6 疾病の受容過程にある対象の思いに関心を寄せ、主体的に苦痛の緩和に向けた姿勢で学ぶことができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象の苦痛緩和に向けた援助とは何か、自らの課題や適切な方法を明確にし、創意、工夫する行動ができる。	1.問題解決のための学習方法や学習内容の活用方法 2. 状況把握力、課題発見力、実行力、発信力 3. 疾病の受容過程にある対象や、緩和ケアを行う看護師の姿勢 4.全人的視点で対象を捉えることの重要性	・実習 1 日目にリフレクションシートを用いて自己の課題を明確にし、目的意識を持ち、学習意欲を高める。 ・実習最終日にはリフレクションシートを活用し、本実習における学びから今後の自己の課題を知識、技術、態度の面から評価し、今後の課題を明らかにする。
2. 対象のもとへ自ら積極的に関わりを持ち、支持的、共感的態度で接することができる。		・自分の気持ちを表現するなど、積極的な姿勢で実習やカンファレンスに参加する。
3. 疾病や死の受容過程にある対象との関わりの中で感じたことや気づきから、今後の自己の学習課題を記述できる。		・体験を通じて実感し、看護とは何かについて考え、自己の看護観につなげる。

## 6. 実習の進め方

### 1 週目

曜日	月	火	水	木
時間	8:15～17:00	8:15～14:30	8:15～17:00	8:15～17:00
予定	<b>病棟オリエンテーション</b> ・受持ち対象の選定 ・対象紹介 ・情報収集 ・コミュニケーション	<b>情報整理と分類、 分析解釈</b> ・コミュニケーション ・意図的に情報収集及び 分析解釈を実施 ・行動計画に基づいた援 助の見学、一部実施 ・病態関連図作成	<b>分析解釈</b> ・情報収集をもとに分析、 解釈を実施 ・行動計画に基づいた援 助の見学、一部実施	<b>全体像</b>
CF	・本実習における自己の 課題と目標 ・受け持ち患者情報共有	対象の安全管理について		全体像の発表 アセスメント
記録	リフレクションシート 様式 1-1	様式 1-1、1-2、2	様式 1-2、2、3	様式 1-2、2、3

### 2 週目

曜日	月	火	水	木
時間	8:15～17:00	8:15～14:30	8:15～17:00	8:15～17:00
予定	・行動計画に基づいた援 助の見学、一部実施 ・対象の反応を捉えながら 援助を実施し、実施・評価 を行う			<div>中間評価面談</div>
CF	プロセスレコード発表	全体像の発表 アセスメント発表		優先順位の決定と根拠 看護計画発表
記録	様式 1-2、2、3 プロセスレコード	様式 1-2、2、3	様式 1-2、2、3	様式 1-2、2、3、4、5

### 3 週目

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15～17:00	8:15～14:30	8:15～17:00	8:15～17:00	9:00
予定	・看護計画に沿って援 助を実施する ・対象の反応を捉えなが ら援助を実施し、実施・ 評価を行う	計画の実施・評価	計画の実施・評価	計画の実施・評価	<div>記録提出</div>
CF		「生きるを支える上 で求められる看護 師の資質」		リフレクションシート の発表	
記録	様式 4、5、6	様式 4、5、6	様式 4、5、6、 実習評価表	様式 4、5、6、 リフレクションシート	実習記録すべて



7. 実習評価表 実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

実習グループ G 学籍番号 \_\_\_\_\_ 学生氏名 \_\_\_\_\_

	評価項目	中間 評価	最終 評価	教員・指導者 評価
目標 1	1.対象の抱える身体的苦痛について病態と症状を関連させ、説明できる。			
	2.疾病の受容過程にある対象及び家族の精神的苦痛とその要因について中範囲理論を用いて、説明できる。			
	3.疾病の受容過程にある対象及び家族の社会的苦痛を明確にし、必要な社会支援が何か記述できる。(記録テーマ 1)			
	4.対象の抱えるスピリチュアルペインを実際の関わりを通し、明らかにすることができる。			
目標 2	1. 疾病の受容過程に沿いながら、対象や家族の思いを受け止め、対象の心理過程に沿った態度で対応することができる。			
	2.受容過程にある対象や家族との関わりから、「生きるを支える上で求められる看護師の資質」について考え、述べることができる。			
目標 3	1.対象の苦痛の緩和に向けた看護計画の立案ができる。			
	2.家族の思いに立ち、家族が持つ苦痛の緩和に向けた援助の方向性を記述できる。			
	3.症状マネジメントの実際を見学し、看護計画立案に活かすことができる。			
	4.対象の自己概念などの個別性を踏まえた看護計画が立案できる。			
	5.スピリチュアルケアの必要性について表現できる。			
	6.実施した看護援助による対象の反応から、看護計画の評価・修正ができる。			
	7.対象の苦痛の緩和に向けた看護計画の立案ができる。			
目標 4	1.対象が、その人らしく生きるための援助ができる。			
	2.対象の安全を守り、苦痛の緩和に向けた援助の実施ができる。			
目標 5	1.対象にとって適切な療養環境とは何かについて述べることができる。			
	2.緩和医療における看護師の役割について説明できる。 (記録テーマ 2)			
	3.全人的視点で得られた情報を正確に報告できる。			
目標 6	1.対象の苦痛緩和に向けた援助とは何か、自らの課題や適切な方法を明確にし、創意、工夫する行動ができる。			
	2.対象のもとへ自ら積極的に関わりを持ち、支持的、共感的態度で接することができる。			
	3.疾病や死の受容過程にある対象との関わりの中で感じたことや気づきから、今後の自己の学習課題を記述できる。			
学生コメント		指導者コメント		
		サイン		
		教員コメント		
自己評価合計点          サイン		サイン		
欠席合計時間  時間                      分		総合評価点  サイン		

評価基準    5：達成    3：一部達成    1：未達成